



特別授業で学生に話す元サッカー日本代表の松井大輔さん(京都市山科区・京都橘大)＝撮影・佐伯友章

地域に根ざす スポーツとは

サッカー松井大輔さん語る

山科・京都橘大

同区の京都橘大で特別授業を行った。海外でのスポーツの位置付けやFリーグの普及に向けた課題などについて学生に語りかけた。

松井さんは、京都サンガF.C.を経て23歳でフランスリーグに挑んだ。約8年間のフランス時代を「サッカーが文化として根付き、生活の一部になっていく。負けると街が暗くなり、勝つと明るくなる」と振り返った。サポーターとの距離が近く、選手が積極的に慈善活動に参加していることも明らかにした。

サッカー元日本代表MFで、フットサル「Fリーグ」を統括する日本フットサルトップリーグ理事長の松井大輔さん(44)は京都市山科区出身。10月27日、客員教授を務める

ツシヨンショーがあつてもいい。いろいろな

人が集まり、つながるモールのような場所にした。リーグの名前を『Fモール』にしてもいいと思う」と訴えた。学生にも新たな名称のアイデアを募り、意見交換した。

経営学部は今春設置されたスポーツ経営学専攻の約50人が受講した。12月にも授業を行い、学生がFリーグの課題解決に向けて提案する。

(大竹逸朗)